

# 研 究 論 集

第 十 四 卷

# 前 卷 目 次

第 12 卷 第 2 号  
第 1 3 卷

鴨長明について……………	草部了円……………	一	右から
藤井高尚の枕冊子研究について……………	柿谷雄三……………	一一	
供養舞臺と法会形式の変遷に就いて……………	小野功竜……………	二九	
ダンテ神曲解説序説……………	石倉小三郎……………	一四四	左から
老人の座と行動——序説——……………	橘 覚勝……………	一七	
宗教に於ける「愛」と「慈悲」の本質……………	岡 邦俊……………	二九	
慣習国際法成立過程の一考察……………	山野正二……………	四三	
大都市中学校教官の指摘する 非行に関する統計的研究(1)……………	荒井貞雄……………	四九	
人造りに就而……………	永田千恵子……………	六四	
西陣見歩記……………	富田朋介……………	六七	
生命の源泉としての水……………	荒木稔子……………	七七	
シヨパン論(4)……………	山口光子……………	九一	
教育・伝統・演奏……………	佐藤允彦……………	九五	
紀行 ソ聯の印象……………	伊奈和子……………	一〇三	
ソ聯の印象……………	片岡みどり……………	一〇九	
パリ・エードあれこれ……………	神田美年子……………	一一一	
書評 大学の講義と図書館との研究……………	荒井貞雄……………	一一五	
老化の心理……………	橘 覚勝……………	一一六	
飯田正一「歌集「バンバン島」……………	田中重太郎……………	一一七	
Arthur Hedley: Selected Correspondence of Fryderyk Chopin を邦訳にめぐって……………	佐藤允彦……………	一一九	
訃報……………		一二三	
彙報……………		一二四	



荒井 貞雄 教授

(教育学)

昭和四十一年四月十六日午後十時十五分、心筋梗塞のため神戸御影の自宅で急逝された。享年六十六歳。

先生は長野県埴科郡坂城町のご出身で、デンバア大学卒業後、シカゴ大学で修士並びにドクターオブフィロソフィー(哲学博士)の学位を受けられた。帰国後は、神戸市理事、同生田区長、同民生局長、関西学院大学教授を経て、昭和二十六年以来、本学教職課程主任教授として、教育社会学、教育史、教育原理、道徳教育、教育実習を担当、また初代図書館長として、昭和二十六年就任以来、四十年十二月、健康上の理由により辞任されるまで、十五年の長きに亘り、その発展に貢献、御遺志によって蔵書(和書一三六四冊、洋書三〇七冊)が同館に寄贈された。

先生は、教育に生涯を捧げられ、教育者の使命を全うされた。神戸栄光教会の終身長老であられた先生は、神の愛によって個人を尊重し、個人のもつ唯一性を信じ、価値実現のための努力を生き甲斐とし、その成長を、何ものにも代え難い喜びとされた。独特の教育原理研究ノート組織は非常に有名である。このノートを通じ、あるいは、非常に重視された個人的交流を通して、和氣霽々のうちに個々の自己完成へと導かれるので、先生を慕い、指導を仰ぐ教え子達が常にその膝下に集まり賑わったが、それが先生の最大の楽しみでもあった。

主著には「精神疲労の比較研究」「高校生の徳性構成過程の研究」「文部省修身教科書の分析研究」などがあり、訳書にはW・C・パワ著「学校における道徳教育の原理と実践」「教育実習手帳」、論文には「宗教教育の目標」「米国に

おける家庭教育」「性格教育の傾向と文献表」「日米大学生の精神疲労に関する比較研究」「教師の権威性と創造性」「教育愛の性格」「德育場の研究」―意味、性格、分析、高・小学生の比較「現代教師像の研究」I・II「初期宗教心の統計的研究」「ノート組織による学習指導に関する研究」などがある。



西山 徳平 教授

(栄養学・食品化学)

昭和四十一年二月風邪のため数日家庭で休養中のところ、二十三日午前二時急性心不全のため、豊中市の服部中央病院にて急逝された。享年六十七歳。

先生は京都帝大(現京都大学)農学部、農林化学科をご卒業後、大阪の武田栄養化学株式会社に入社され研究部員として栄養剤及乳幼児製品の研究製造に従事、昭和五年四月から六年十二月まで、京都帝大医学部医化学教室で蛋白質の研究に従事、後、武田栄養化学、武田薬品工業株式会社においては研究部長、監査役等を経て、昭和二十九年一月、武田薬品工業株式会社を停年退職され、同年四月、神戸森女子短大講師を経て、昭和三十年五月に相愛女子短大に就任された。

なお、武田薬品時代には武田薬工研究所や日本農芸学会に「菌類によるV.B.の工業的製造に関する研究」その他数多く研究発表をしておられ、特に昭和二十八年四月には「培養法によるV.B.の工業的製造に関する研究の完成」の研究により表彰された。

本学就任後は、特に生活科(食物科)の推進力として大いに貢献された。

彙報

一般教育・教職

橘 覚 勝 教授(心理学)

昭和四十一年六月二十六日より七月二日までオーストリアのウィーンで開催せられた第七回国際老年学会に出席し、The Life View of the Aged through their Last Words と題して発表、学会後会員の団体に加わり、ハンガリーのブタペスト、ソ連邦のキエフ、ヤルタ、モスコ、レニングラードを視察し、オランダのアムステルダム經由七月十九日に帰朝した。なお同十一月二十二、二十三日両日大阪で開かれた第八回日本老年社会科学会においてその結果を報告した。

海 辺 忠 治 教授(哲学)

日本宗教学会第二十五回学術大会に司会並びに研究発表  
「宗教的現実」  
昭和四十一年十月二日 於東洋大学

「宗教研究」第一八八号 右要旨記載

新任 (専任者のみ)

秦 博 教授

昭和四十一年五月一日付 教育原理、道徳教育の研究、教育実習担当

教育職員免許状下附状況

学科別	卒業生数	免許状種類(教科別)と取得者数			
		高	中	一	中
音楽学部	六六	音楽 六一	音楽 六一		
国文科	七〇			国語	五五
家政科				家庭保健	七七一
食物専攻	九二			家庭保健	七七一
被服専攻	一四〇			家庭保健	四二六

音楽学部

帰国 馬淵 卯三郎 (助教)

昭和三十九年四月一日付でウィーン留学を命ぜられ Kiel-Christian-Albrecht-Universität の Musikwissenschaftliches Institut で、Walter Wiora 教授の指導により、音楽学とくに民俗音楽学の分野での比較研究に従事。

Wiora 教授の転任に随ひ、同年十一月より Saarbrücken の Universitäts-Saarländes Musikwissenschaftliches Institut に移り、同教授のもとで従前の研究を続行、昭和四十一年八月一日帰国。

その間、昭和三十九年九、十月、Alexander von Humboldt 財団の語学奨学金により、Rothenburg of der Tauber の Goethe-Institut でドイツ語講習を受け、同年十一月より昭和四十一年七月まで、同財団より研究奨学金を受く。

また、昭和三十九年八月三十日より九月五日まで、オーストリーのザルツブルグで開催された、第九回国際音楽学会に出席。

昭和四十年十月二十一〜二十四日、Coburg で開かれた Gesellschaft für Musikforschung の一九六五年度大会に出席

留学 大谷 紀美子 (助手)

昭和四十一年九月よりインド留学、マドラスのカラクシェトラにて、インド音楽を研究。

新任 (専任者のみ)

岸 辺 成 雄

昭和四十一年九月十五日付、大学作曲学科音楽学主任

樺 弘 専任講師

昭和四十一年四月一日付、管専攻トランペット担当

若 林 正 史 助手

昭和四十一年四月一日付、管専攻フルート担当

山田耕作を偲ぶ演奏会

一九六六・三・一六 フェスティバルホール

一、相愛学園 歌 大木惇夫作詞

合唱とオーケストラ (相愛学園学生、生徒)

(昭和三十三年作曲)

二、合唱

相愛女子大学音楽部学生

指揮 東儀祐二

指 揮 林 雄 一 郎

ピ ア ノ 伴 奏 大 北 路 子

・電 話―川路柳虹作詞 (大正十五年作曲)

・青 い 小 鳥― ( )

・洗 濯 ば あ さ ん― (昭和二年 )

・よ し き り―三木露風作詞 (大正二年 )

・みぞれに寄せる愛の歌―大木惇夫 (昭和二十二年 )

三、ピアノ独奏 炎 (大正五年作曲)

・葬 い 送 リ ス ト

四、メゾソプラノ独唱

栗 本 尊 子

・か や の 木 山―北原白秋作詞 (大正十一年作曲)

・か ら た ち の 花― (大正十四年 )

・中 国 地 方 の 子 守 歌―日 本 民 謡 (昭和三年 )

・待 ち ぼ う け―北原白秋作詞 (大正十二年 )

・野 ば ら―三木露風作詞 (大正六年 )

五、テノール独唱

柴 田 睦 陸

・曼珠沙華(ひがなばな)―北原白秋作詞 (大正十一年作曲)

・こ の 道― (昭和二年 )

・箱 根 八 里 は―日 本 民 謡 ( )

・鐘 が な り ま す―北原白秋作詞 (大正十二年 )

七、ソプラノ独唱

伊 藤 京 子

・芥子粒夫人より―北原白秋作詞 (大正十二〜十三年作曲)

1. きれいな きれいな ちびねずみ

2. 王様お馬で通られる

3. とても不思議なみどりの芽

八、ヴァイオリン独唱

辻 久 子

・か ら た ち の 花

・竹 取 物 語―貴志康一作曲

・獅 子 舞―大栗 裕作曲

九、オーケストラと合唱

相 愛 オ ー ケ ス ト ラ

相 愛 女 子 大 学 音 楽 部 学 生

・か ら た ち の 花 (昭和三年編曲)

・ぼらの花に心をこめて―大木惇夫作詞 (昭和三十三年作曲)

・赤 と ん ぼ―三木露風作詞 (昭和二年 )

音楽学会第十七回全国大会

昭和四十一年度音楽学会全国大会が本学に於て、次の如き日程・内容で開催された。嘗て、昭和二十九年秋、未だ復興建設の初期の段階にあった本学が当番校をつとめ、(音楽学会関西支部は本学内におかれ、故石倉小三郎教授が関西支部長をつとめておられた)当時最新だった現在の五号館の各教室を使用して催された全国大会以来、十二年ぶりのことである。此の間、音楽学会の成長発展もさることながら、本学其後の復興の足跡とそれを思い比べ感慨深いものがある。

今回の大会は、全国から多数の参加者を経て、音楽学会としてはこれ迄にない盛況を呈した。受入活動も学園各部の緊密な協力により、つつがなく完了し、本学として一応の面目をほどこしたことであった。

日程 十月十八日(火) 午前十・〇〇～十二・三〇

午後一・三〇～四・四〇

研究発表会……於講堂

五・〇〇～六・五〇

公開講演会……

(パリ・コンセルバトワール教授、N・デュフルク博士)

七・〇〇～九・〇〇

懇親会……於大阪会館

十月十九日(水) 午前九・三〇～十二・四〇

午後一・五〇～四・二〇

研究発表会……於講堂  
合併教室

四・三〇～六・三〇

総会……於図書館ホール

七・〇〇～九・〇〇

理事総会及び合同役員会

南九州地方演奏旅行日程

昭和四十一年十一月十四日

四十二年十一月二十三日

十一月十五日

十六日

十七日

十七日

十八日

- 大阪出発
- 〃 帰着
- 扇城高校講堂
- 熊本県図書館ホール
- 熊本刑務所
- 串木野市民会館
- 願泉寺
- 宮之城高校講堂
- 浄信寺
- 〃
- 小林中央公民館

- 鑑賞演奏会
- 〃
- 慰問
- 鑑賞演奏会
- 法要
- 鑑賞演奏会
- 法要
- 一般公開

- 堤 はるみ
- 西島 恵子
- 藤井 純子
- 道浄 節子
- 森 和子
- 岡本 孝子
- 熊川 昌子
- 小泉 景子
- 芝 佳子
- 志摩 照子
- 多賀 千晶
- 辻 裕子

- 「子供の音楽教室」における子供の発達
- 幼稚科クラス分析 —
- 三味線音楽の旋律形態
- 江戸長唄について —
- 山田耕筰研究
- パイオニアとしての足跡 —
- 生命顕現としての音楽の研究への一提言
- 宗教と音楽との関連を手がかりとして —
- 旋律記憶の実験的研究

〆音楽学専攻〆研究生修了論文題目

- 久保田敏子
- 野川流三味線組唄

十九日 指宿乗船寺

二十日 鹿児島別院

〃 〃 県文化センター

〃 〃

二十一日 宮崎真栄寺

〃 〃 市民会館

- 法要
- 〃
- 鑑賞演奏会
- 一般公開
- 法要
- 一般公開

昭和四十年〆音楽学専攻〆卒業論文題目

- ショパンのノクターンの使用和声について
- 教科としての音楽に対する好嫌とイメージの分析
- 「ラフマニノフ研究」序説
- パレストリーナのミサについて
- モーツァルトの歌曲
- ジョージ・ガーシュインに関する一考察
- 能に於ける小鼓の一考察
- リズム分析 —

〓一般教養科目〓

児玉 有子 (ピアノ)	L, isle Joyeuse ..... Debussy	伴奏 松房恵子
中井 寿子 (ソプラノ)	(1) おやすみ : 中田 喜直 (2) Pleurzi mes yeux (Le cid) ..... Massenet	伴奏 松房恵子
杉原美美子 (ヴァイオリン)	伴奏 森本順子 Giaccona ..... J. Vivaldi	
岩畔 絹枝 (フルート)	伴奏 高垣照子 Concerto 1st Movement ..... J. Quantz	
柳田 裕子 (ソプラノ)	(1) たゞの心 : 中田 喜直 (2) Ritorna Vinctior (Aida) ..... Verdi	伴奏 平野公子
原田 望 (ヴァイオリン)	伴奏 千葉 翠 Concerto op. 47 d moll ..... J. Sibelius	
笠孝 松子 (ピアノ)	Toccata op. 11 ..... Prokofieff	
森谷 昭子 (ヴァイオリン)	伴奏 笠松孝子 Concerto D dur 1st Movement ..... Tchaikovsky	
後藤美喜子 (ソプラノ)	(1) みぞれに寄する愛の歌 : 山田 耕筈 (2) Suicidio (La gioconda) ..... Ponchielli	伴奏 坂上明美
松房 恵子 (ピアノ)	Variation über ein engenes thema op. 21 ..... Brahms	
高岡 洋子 (クラリネット)	伴奏 坂上明美 Sonata op. 167, 1st Movement ..... Saint-Saens	
玉井 恵利 (ソプラノ)	(1) おやすみ : 中田 喜直 (2) Madre, pietosa Vergine ..... Verdi	伴奏 児玉有子
平野 公子 (ピアノ)	Ballade op. 24 ..... Grieg	
丸谷千津子 (ヴァイオリン)	伴奏 大北路子 Concerto op. 82 ..... A. Glazunov	

宗教「宗教概説」	岡 邦 俊 教授
〓 「真宗概説」	松 永 大 覚 教授
〓 「歎異抄」	松 永 大 覚 教授
〓 「同」(講読)	岡 邦 俊 教授
哲学「哲学概説」	海 辺 忠 治 教授
文学「文学概説」	田 中 重 太 郎 教授
歴史「ヘブライズの潮流」	木 場 集 蔵 教授
法学「法学概論」	山 野 正 二 教授
経済学「経済学概論」	河 村 宣 介 教授
化学「化学・物理」	堀 村 雅 寿 教授
生物学	中 村 雅 治 教授
生活科学	大 屋 拳 吾 教授

〓外国語科目〓

英語(1)(2)(3)(4)	小 谷 泰 造 講師
英語(5)	久 納 慶 一 講師
ドイツ語(1)(2)(3)	久 納 慶 一 講師
ドイツ語(4)	久 納 慶 一 講師
フランス語(1)(2)	久 納 慶 一 講師
イタリア語(1)(2)	木 村 恵 子 講師

〓保健・体育科目〓(略)

〓専門教育科目〓(講義・演習関係)

音楽理論「楽式論」	仲 芳 樹 教授
〓 「音楽通論」	大 橋 博 助 教授
〓 「和声学」(1)(2)	大 橋 博 助 教授
〓 「和声学」(1)(2)	山 田 光 生 助 教授
〓 「和声学」(1)(2)	山 田 光 生 助 教授
〓 「和声学」(1)(2)	辻 井 英 生 助 教授

- 〃 「管弦楽法」
- 音楽史「東洋・日本」
- 音楽史「西洋」(1)
- 〃 「〃」(1)
- 〃 「〃」(2)
- 〃 「声乐の歴史」
- 〃 「器楽の歴史」
- 音楽美学「美学概説」
- 宗教音楽論
- 〃
- 音楽心理学
- 比較音楽学
- 音楽音響学
- 楽 器 論
- 演奏解釈
- 〃
- 音楽学専攻(上記以外)
- 音楽学概説
- 東洋音楽史概説
- 西洋音楽史
- 〃
- 比較音楽学
- 音楽心理学概説
- 東洋音楽史特殊講義
- 音楽理論
- 西洋音楽史
- 〃
- 演奏
- 〃
- 〃
- 音楽美学
- 〃

- 池内友次郎 講師
- 小野 功 竜 講師
- 酒 井 醇 助教授
- 馬淵卯三郎 助教授
- 佐藤 允 彦 講師
- 馬淵卯三郎 助教授
- 佐藤 允 彦 講師
- 酒 井 醇 助教授
- 小野 功 竜 講師
- 品川 三 郎 講師
- 梅本 堯 夫 講師
- 岸 辺 成 雄 講師
- 北村 音 壺 講師
- 池内 友 次 郎 講師
- 齊藤 秀 雄 講師
- 徳丸 聡 子 講師
- 酒 井 醇 助教授
- 小野 功 竜 講師
- 佐藤 允 彦 講師
- 馬淵卯三郎 助教授
- 岸 辺 成 雄 講師
- 梅本 堯 夫 講師
- 平 野 健 次 講師
- 仲 芳 樹 助教授
- 吉田 秀 和 講師
- 馬淵卯三郎 助教授
- 佐藤 允 彦 講師
- 酒 井 醇 助教授

- 音楽心理学
- 音楽理論
- 〃
- 〃
- 卒業論文演習(四年次)
- 仲 芳 樹 教授
- 馬淵卯三郎 助教授
- 小野 功 竜 講師
- 平 野 健 次 講師
- 古楽演習(雅楽)
- 〃 (バロック・アンサンブル)
- 〃
- 各学科、専攻共通
- ソルフェージュ
- 宮越精三郎 教授
- 水谷 堅 助教授
- 木川田 誠 講師
- 合 唱
- 林 雄一郎 講師
- 合奏(オーケストラ)
- 斉藤 秀 雄 教授
- 合奏(『教職課程の為の器楽合奏』)
- 品川 三 郎 講師
- 指揮法
- 東儀 祐二 助教授
- 伴奏法
- 伊奈 和子 講師
- 声 楽
- 柴田 睦 陸 教授

- 梅本 堯 夫 講師
- 大橋 博 助教授
- 山 田 光 生 講師
- 酒 井 醇 助教授
- 佐藤 允 彦 講師
- 山 田 光 生 講師
- 梅本 堯 夫 講師
- 小野 攝 竜 講師
- 小野 功 竜 講師
- 喜田 賦 講師
- 白石 勝 子 助教授
- 品川 三 郎 講師
- 柳 瀬 徹 講師
- 東儀 祐二 助教授
- 嘉納 愛子 教授



鈴木田鶴子 教授  
栗本尊子 教授  
水谷堅 助教授  
稲垣孝子 講師  
木川田誠 講師  
門屋菊子 講師  
伊藤亘行 講師  
横工美智子 助手

器  
案  
ピ  
ア  
ノ

井口基成 教授  
片岡みどり 教授  
志賀宗三郎 助教授  
津曲滋子 助教授  
川村明子 講師  
伊奈和子 講師  
小林とし 講師  
内田貽子 講師  
坂本晃子 助手  
滝川富紀子 助手

ヴァイオリン

辻久子 教授  
西田秀雄 助教授  
東儀幸 講師  
井上頼豊 講師  
ハ  
ー  
プ  
張谷恭子 講師

山田真梨子 教授  
白石勝子 助教授  
莊田作 助教授  
柳瀬徹 講師  
田中万美子 講師  
中村幸子 講師  
伊藤京子 講師

矢田暎子 教授  
徳末悦子 教授  
石橋信子 助教授  
出口美智子 講師  
西川恵美子 講師  
井口愛子 講師  
市川伸子 講師  
福島晴子 講師  
大北路子 助手

東儀祐二 助教授  
鷺見三郎 講師  
吉永清子 助手  
日比野忠孝 講師

フルート

川口勝治郎 講師  
クラリネット  
喜田 賦 講師

ファゴット  
三原泰三 講師

打楽器  
大橋 博 助教授

オルガン  
久保田清二 助手

△教職に関する専門科目▽

教育原理  
教育心理学・青年心理学  
教科教育法(音楽)  
道徳教育の研究  
教育実習

秦 橘 博 教授  
品 川 覚 講師  
秦 三郎 教授  
秦 博 教授

森 正 講師  
北爪利世 講師

短期大学

新任(専任者のみ)

中野 恵海 助教授

昭和四十一年四月一日付 国文学史、国文学講義担当

白取 吉敏 助教授

昭和四十一年四月一日付 被服学、衣料学担当

森本 茂 講師

昭和四十一年四月一日付 国文学演習、国文学特殊講義担当

林崎つゆ 講師

昭和四十一年四月一日付 調理担当

田中昭子 講師

昭和四十一年四月一日付 栄養学、調理化学担当

砂橋安子 助手補

昭和四十一年四月十五日付

吉川知子 助手補

昭和四十一年四月十五日付

国文科

田中重太郎 教授 (国文学)

著書「国文法の解決」(昭和四十一年三月正林書院刊)

論文「枕草子の研究法」(「国文学解釈と鑑賞」八月号) 『逆接假定条件を示す

接続助詞「と」の用例について』(「明日香」九月号)

森本茂 専任講師 (国文学)

編書「演習物語日記抄」(田中重太郎氏監修。昭和四十一年七月十日刊。初音

書房)

編書「新注伊勢物語」(田中重太郎氏監修。昭和四十二年二月刊。初音書房)

共著「源氏物語必携」(秋山虔氏編。昭和四十二年二月刊。学燈社)

論文「紫式部日記の解釈——惜しみのしりて——考」(「解釈」第十二巻九

号)

家政科食物専攻

塩野緑子 助教授 (調理学及び実習、保健科教育法)

「標準調理実習」(下田吉人編。昭和四十一年十月十五日初版。光生館) (二日

の標準献立及中国料理) について執筆

村上裕子 講師 (栄養指導、特別調理)

「栄養指導」(種子島千鶴子編。昭和四十一年六月一日初版。建帛社) (集団給

食管理) について執筆

小原国彦 玉置ミヨ子 (食品学研究室)

昭和四十一年度日本家政学会に於いて下記のテーマ及び内容について発表し

た。

テーマ 炭化水素資化性菌の食用油脂に対する挙動

第一報 変敗油に於ける成育

要約 いわゆる石油を食べ物にするという炭化水素資化性菌を上から分離し、

そのうちの特定酵母菌を用いて、利用面のない変敗油を優秀な栄養源即

ち酵母菌体として再利用することができた。

尚、その代謝産物について検討中である。

家政科被服専攻

浜崎弥市 教授 (被服学・染色学)

著書「衣服繊維、染色学」昭和四十一年四月刊

山本登美子 助教授 (被服構成及び実習(洋裁))

著書「真理の服装」昭和四十一年九月刊

神田美年子 助教授 (被服構成及び実習(洋裁))

著書「メリヤスハンドブック」(日本繊維研究会発行。昭和四十一年一月刊)

国文科能楽鑑賞会

国文科では十二月十三日(火)午後一時三十分から四時まで、大槻能楽堂(大

阪市東区上本町二丁目)において、能楽鑑賞会をおこなった。

はじめに、田中重太郎教授と泉嘉夫師の解説があり、仕舞 玉之段、狂言 千

鳥、能楽 羽衣、を鑑賞。中野助教授、柿谷講師、森本講師も参加。学生は、二

年A組五十一名、二年B組五十二名、一年A組四十名、一年B組三十九名、一年

C組三十七名、計二百十九名が参加した。全員プリントを片手に熱心な鑑賞ぶり

であった。能楽、歌舞伎、文楽などの鑑賞会は、今後、毎年一回乃至二回、正

規の講座の一環としておこなわれる。

国文学遺跡めぐり

国文科では、定例の文学遺跡めぐりを次のようにおこなった。参加者は、田中重太郎教授、中野恵海助教授、柿谷雄三専任講師、森本茂専任講師、山野正二専任講師（一般教育）、大橋清秀講師、永田千恵子助手をはじめ、一、二年の学生二、三名で、観光バス五台を利用した。

日時……十月二十七日（木）午前八時～午後五時半  
方面……比叡山根本中堂（東塔）～横川～湖西方面

昭和四十一年度開講科目・講義題目

国文科

(一般教育科目)	宗教	岡邦俊	教授
〃	哲学	松永大覚	教授
〃	音楽	海辺忠治	教授
〃	歴史	仲芳樹	教授
〃	経済学	品川三郎	講師
〃	法学	木場集蔵	講師
〃	生活科学	河村宣介	講師
〃	生物学	山野正二	講師
〃	〃	山野恒久	講師
〃	〃	奥野春雄	講師
〃	〃	中村治	講師
(外国語科目)	英語	天崎紹雄	講師
(保健体育科目)	体育講義	富田朋介	教授
〃	体育実技	吉村貞雄	講師
(専門教育科目)	文学概論	天崎紹雄	講師

彙報

国文学概論	田中重太郎	教授
国文学史	沼波守	教授
〃	中野恵海	助教授
〃	田中重太郎	教授
国文学講読（枕冊子）	中野恵海	助教授
〃	柿谷雄三	講師
〃	柿谷雄三	講師
〃	中野恵海	助教授
〃	柿谷雄三	講師
〃	柿谷雄三	講師
〃	寺内清之助	講師
〃	大橋清秀	講師
〃	草部了円	講師
〃	飯田正一	講師
国文学演習（十訓抄）	今小路覚瑞	教授
〃	森本茂	講師
〃	森本茂	講師
国文学特殊講義	森本茂	講師
国語学概論	鈴木一男	講師
国語学史	井之口有一	講師
国語表現法	鈴木一男	講師
国語学演習（文法）	池田勇	講師
〃	柿谷雄三	講師
〃	柿谷雄三	講師
漢文学史	南部松雄	講師
漢文講読（論語）	南部松雄	講師
〃	平部秀道	講師
〃	中井玄英	講師
言語学	秦博	教授
(教職専門科目)	秦博	教授
教育原理	橋覚勝	教授
教育心理学	田中重太郎	教授
教科教育法（国語）	秦博	教授
教育実習	秦博	教授
道德教育の研究	秦博	教授

二七

家政科

(一般教育科目) 宗 教 哲 学 文 学 音 楽 社 会 学 經 济 学 法 学 生 活 科 学 化 学 生 物 学 英 语 (外国語科目) (保健体育科目) 体 育 講 義 体 育 実 技 (専門教育科目) 家 族 関 係

岡 邦 俊 教授 松 永 大 教授 海 辺 治 教授 中 前 史 郎 講 師 中 野 惠 海 助 教 授 森 本 芳 樹 講 師 仲 川 三 郎 教 授 品 川 順 三 講 師 稻 岡 順 雄 講 師 河 村 宣 介 講 師 山 野 正 二 講 師 赤 坂 清 司 講 師 堀 合 雅 一 講 師 川 合 浩 一 講 師 堀 合 雅 一 講 師 水 野 雅 彦 講 師 奥 野 春 雄 講 師 天 崎 紹 雄 講 師 中 井 玄 英 講 師 小 谷 泰 造 講 師 富 田 朋 介 教 授 吉 村 貞 雄 講 師 門 脇 正 彦 講 師

住 居 学 栄 養 学 〃 〃 〃 〃 〃 栄 養 生 理 学 栄 養 病 理 学 生 理 学 食 品 学 実 習 食 品 化 学 食 品 材 料 食 品 加 工 貯 蔵 应 用 微 生 物 学 衛 生 学 食 品 衛 生 学 栄 養 指 導 給 食 管 理 調 理 学 調 理 化 学 食 糧 經 济 学 育 児

(実習) (実験)

麻 生 久 弥 講 師 田 中 昭 子 講 師 西 河 直 富 講 師 飯 塚 義 富 講 師 小 原 国 彦 助 教 授 村 上 裕 子 講 師 富 田 朋 介 教 授 富 田 朋 介 教 授 富 田 朋 介 教 授 小 原 国 彦 助 教 授 小 原 国 彦 助 教 授 奥 野 春 雄 講 師 小 原 国 彦 助 教 授 堀 原 雅 寿 講 師 西 田 富 美 講 師 福 住 一 三 講 師 泉 隆 雄 講 師 飯 塚 満 男 講 師 山 榊 恒 久 講 師 磯 部 竜 馬 講 師 村 上 裕 子 講 師 村 上 裕 子 講 師 塩 野 緑 子 助 教 授 林 崎 つ ゆ 講 師 村 上 裕 子 講 師 平 田 栄 三 郎 講 師 田 中 昭 子 講 師 美 崎 皓 講 師 大 矢 尚 史 講 師

社會福祉	學校保健	家庭機械及び家庭工作	被服學	被服構成及び実習 (和裁)	被服學	被服史	染料學	衣服學	被服整理學	意匠學	服飾美學	手芸	(教職専門科目)	教育原理	教育心理学	教科教育法(家庭)	教科教育法(保健)	教育実習
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

善峰憲雄	高階義登	木下邦夫	濱崎弥市	白取吉敏	森山さきり	荒木稔子	渡辺かねみ	神田美年子	山本登美子	二木久枝	手塚唯聴	白取吉敏	浜崎弥市	伊東澄子	山本富佐子	山塚唯聴	山住とし子	秦博	松浦伯夫	寛田知義	橘田覚勝	沢田昭	荒木稔子	荒木稔子	塩野緑子	秦野緑子	松浦伯夫
講師	講師	講師	教授	助教授	教授	助教授	講師	助教授	助教授	講師	助教授	講師	教授	講師	講師	講師	講師	教授	講師	講師	教授	講師	助教授	助教授	助教授	助教授	講師

教育実習	道徳教育の研究	〃	〃	榮養士免許証下附狀況	五七名	寛田知義	秦博	松浦伯夫	寛田知義	講師	講師	講師	講師	講師
										一般教育關係	著・編・訳者	書名	出版年	
										高楠順次郎	大正新修大藏經	第二十、四二卷	昭四十年	
										田中二郎	日本国憲法体系	第一〇八卷	昭三十六〇四十年	
										岩波講座	現代法	一〇六、八、十〇十五	昭四十〇四十年	
										末延三次等訳	P.G. ヴィンogradoff 著	法における常識	昭四十〇四十年	
										高峯了州	ラートブルフ著作集	第一〇十卷、別巻	昭三十五〇四十年	
										佐藤哲夫	華嚴思想史		昭三十八年	
										石田充之	天台大師の研究		昭三十八年	
										小笠原宣秀	日本浄土教の研究		昭三十八年	
										遠村富士男	中国近世浄土教の研究		昭三十八年	
										下村富士男	国史文献解説 続		昭四十年	
										大東出版	日英仏教辞典		昭四十年	
										清宮四郎	憲法講座 一〇四		昭四十年	
										佐藤功	国際法上の自衛権		昭三十九年	

宮内庁書陵部  
看聞日記 別記

小葉田 淳  
紙背文書・看聞日記 誌史 総覧

川島 武宣  
経験法学の研究

皆川 洸  
国際法判例要録

高野 雄一  
判例研究 国際司法裁判所  
国際経済組織法

尾高朝雄 教授  
追悼論文編集委員会

伊藤 不二男  
自由の法理

加藤 新平  
ビトリアの国際法理論  
法解釈学および法哲学の諸問題

清宮博士退職記念  
論文集刊行委員会  
憲法の諸問題

田岡 良一  
法理学及国際法論集

大阪市役所

Vinogradoff, P.G.  
Cantó全集 昭四十四年

Salmond, J.W.  
昭和大阪市史統編 一、二、四、六 昭四十四年

Klein, E.  
ハイデッカー選集 十八 昭四十年

教職課程関係  
比較教育学 昭四十年

F・シュナイダー著  
文部省第七十二年報 昭四十年

沖原 豊 訳  
徒弟教育の研究 昭三十七年

佐藤 守  
教育の可能性 昭三十九年

木原健太郎  
授業診断 昭三十七年

平 凡 社  
エヌ・トラウ  
ゴット等著

金子 武蔵  
ウエイン・デニス著

黒田 実郎 訳

H.J. アイゼンク著  
異常行動研究会訳

ロロ・メイ著  
小野 泰博 訳

C. ブレンナー  
山根泰博 等訳

小野 泰博 等訳

藤井 尚治

天理図書館  
呉 文 炳

門前 真一  
鈴木 弘道

片寄 正義  
中田 剛直

昭和女子大学近代  
文学研究室

井之口 有一 等  
伊知地 鉄男

久松 潜一 等  
窪田 空穂

會根 豊祐  
大阪女子大学国文学  
研究室

草部 了 円  
東京大学国語国文学  
学会

心理学事典 昭四十年

人間の脳活動 昭四十一年

倫理学事典 昭四十年

幼児の行動・言語・知能 昭四十年

児童の社会性と適応 昭四十一年

行動療法と神経症 昭四十年

不安の人間学 昭三十八年

精神分析の基礎理論 昭四十年

精神のコントロール 昭四十一年

ストレスと人間 昭四十一年

西鶴 図版、解説 昭四十年

国書遺芳 昭四十年

源氏物語新見 昭四十年

寝覚物語の基礎的研究 昭四十年

平松家旧蔵本 平家物語 付別冊 昭四十九年

今昔物語集論 昭四十年

竹取物語の研究 昭四十年

近代文学研究叢書 第二十二 昭三十九～四十年

第二十三 昭四十年

尼門跡の言語生活の調査研究 昭四十年

延慶本 平家物語 解説、対校表 昭四十年

現代日本文学大事典 昭四十年

完本 新古今和歌集評釈 中・下巻 昭三十九～四十二年

源氏物語女性群像 第四巻 昭四十年

後撰和歌集総索引 昭四十年

方丈記諸本の本文校定に関する研究 昭四十一年

国語国文学研究文献 昭四十一年

目録 昭和三十九年度 昭四十年

倉野 憲司	校本古事記	昭四十年	中垣 正幸	被服整理実験書	昭四十年
紫 式 部	源氏物語 青表紙本 五十四帖	昭四十年	谷川 英一	水産微生物学	昭四十一年
角田 文衛	紫式部とその時代	昭四十一年	山崎 勝弘	配色ノート	昭四十一年
笹淵 友一	「文学界」とその時代 上・下	昭三十八年	丹野 郁	西洋服飾発達史	昭四十年
石村 貞吉	源氏物語有職の研究	昭三十九年	藤田 秋治	古代・中世・近世・現代編	昭四十年
瀬古 確	日本文学の自然観照	昭四十年	緒方 彦章	ビタミン学	昭三十九年
長谷川 泉	川端康成論考	昭四十年	野崎 泰子等	化学実験操作法 続編一〜三	昭四十年
森本 修	芥川竜之介伝記論考	昭三十九年	石橋 弘毅	色彩と意匠	昭四十年
和歌史研究会	私家集伝本書目	昭四十年	豊田 保雄	石油精製と石油化学	昭三十九年
長谷川 泉	近代日本文学評論史	昭四十一年	太田 達雄	新育児学	昭四十年
成瀬 正勝	昭和文学十四講	昭四十年	東京農工大学農学部	最新微生物学	昭四十年
犬養 孝	万葉の旅	昭四十年	食糧化学教室	食品学実験法	昭四十年
富倉 徳次郎	平家物語研究	昭三十九年	安田 守雄	栄養学要綱	昭四十年
三谷 栄一	徒然草解釈大成	昭四十一年	文化服装学院	新文化服装講座 一〜六	昭四十〜四十二年
三木 幸信	義門研究資料集成 上	昭四十一年	メリヤス辞典刊行会	メリヤスハンドブック	昭四十一年
池田 亀鑑	平安時代の文学と生活	昭四十二年	横山 正実	調理の化学	昭三十九年
岡一 男	源氏物語の基礎的研究	昭四十一年	新延 信吉等	生化学	昭四十一年
三木 幸信	義門の研究	昭三十八年	井上 憲政	綜合酵素化学	昭二十七年
家政科関係			A・ブラッケン著	微生物の化学	昭四十年
東京大学農芸化学教室			赤井重恭等訳	食品検査法	昭四十年
小池 行松	実験農芸化学 上・下巻	昭四十年	小原 哲二郎	食品・栄養化学実験書	昭四十一年
大野 順之助	家政学原論	昭四十年	日本人間工学会	被服と人体	昭四十年
高橋 春子	最新立体裁断	昭四十年	松川 哲哉	新しい天然纖維	昭四十年
角山 幸洋	洋裁の基礎知識	昭四十年	G・A・ダリオール著	エレガンスの事典	昭四十年
常見 育男	日本染織発達史	昭四十年	吉川 和志訳	新図解被服管理辞典	昭四十年
山田 正城	改稿家政学 家庭管理学	昭四十年	衣生活研究会	新和服工作 上巻	昭四十一年
塚田 正城	デザインの基礎	昭三十九年	東京家政学院	衣料学概説	昭四十一年
宮下 孝雄	基本配色学	昭四十年	和服裁縫研究会	応用被服材料学	昭四十年
速水 決	新版 栄養病理概論	昭四十年	林 雅子		昭四十年
岡本 重雄	家庭心理学	昭四十年	小川 安朗		昭四十年
			辻合喜代太郎		昭四十一年

今井 陽	脂質の生化学	昭四十一年	
尾崎 準一	食品加工法	昭四十一年	
山口 一孝	植物成分分析法 上・中・下	昭三十五〜三十九年	
赤松 茂	生化学	昭三十九年	
音楽学部関係			
C. H. ビッケル著 塚谷晃弘訳	近代管絃楽法	昭三十七年	
諸井 三郎	音楽形式	昭三十五年	
伊藤 義雄	楽式論	昭三十九年	
R. シュテール著 尾高尚忠訳	和声法	昭四十年	
小松 耕輔	新訂 和声法	昭四十年	
R. シュテール著 中村太郎訳編	対位法	昭四十年	
ハンス・ゼードルマイヤ著 石川公一訳	中心の喪失	昭四十年	
阿部 公正	日本の洋楽百年史	昭四十一年	
秋山 竜英	音楽史	昭四十年	
カール・パリッシュ ジョン・オール共著	演奏の理論	昭四十一年	
服部 幸三訳	標準音楽辞典	昭四十二年	
土田 貞夫	文芸思潮論	昭二十三年	
音楽之友社	悲劇美の美学	昭二十三年	
大塚 保治	芸術の創造と歴史	昭二十二年	
ヨハンネス・ フォンケルト著 金田 廉訳	美学及芸術論	昭二十二年	
井島 勉	リヒャルト・ワグナーの芸術	昭四十年	
大塚 保治	歌劇大事典	昭三十七年	
渡辺 護	ヴァイオリン演奏の技法 上・下	昭三十九年	
大田黒 元雄	転調論	昭三十八年	
カール・フレッシュ著 佐々木庸一訳	ヴァイオリン奏法と指導原理	昭四十年	
呉 泰次郎			
イヴァン・ガラミアン著 アカンサス弦楽研究会訳			
ジョーシ・ウエッジ著 板野 平訳	鍵盤上の和声	昭三十九年	
Blume, F.	Die Musik in Geschichte und Gegenwart, Bd.12	1965	
Groult, D. J.	A History of western music.	1962	
Lang, P. H.	Music in the western civilisation.	1963	
Einstein, A.	Music in the romantic era.	1947	
Urich, H.	A History of music and musical style.	1963	
Joy, C. R.	Music in the life of A. Schweitzer.	1951	
Toch, E.	The Shaping forces in music.	1958	
Donington, R.	The Interpretation of early music.	1963	
Blom, E.	Grove's Dictionary of music, Vol. 1—10	1954	
Borren, C. Van den	The Source of keyboard music.	1913	
Rothschild, F.	Musical performance in the time of Mozart and Beethoven.	1961	
Rothschild, F.	The Lost tradition in music.	1953	
Long, N.	Music in English education.	1959	
Walker, A.	A Study in musical analysis.	1962	
Rainbow, B.	Handbook for music teachers.	1964	
Husmann, H.	Einführung in die Musikwissenschaft.	1958	
Bloom.	Everyman's dictionary of music.	1964	
Szgeti, J.	A Violinist's notebook.	1964	
Reed, H.	Education through art.	1954	